

# 第1回いわての森林づくり県民税事業評価委員会

日 時：令和元年6月14日（金）13：30～15：30  
場 所：サンセール盛岡 2階 中ホール

## 次 第

1 開 会

2 議 題

- (1) 平成30年度いわての森林づくり推進事業の実績について
- (2) 令和元年度いわての森林づくり推進事業の内容について
- (3) いわて環境の森整備事業の施工地審査について
- (4) 「いわての森林づくり県民税」第3期終了後のあり方検討について

3 そ の 他

4 閉 会

# いわての森林づくり県民税事業評価委員会委員名簿

(平成30年7月19日現在)

氏名	役職名等	備考
石川 公一郎	株式会社シオン 代表取締役	
岩田 智	岩手県立大学宮古短期大学部 教授	
岡田 秀二	富士大学 学長	
小山田 四一	一戸町立図書館 館長	
國崎 貴嗣	岩手大学農学部(環境科学系) 准教授	
佐藤 重昭	森林所有者(徳清倉庫株式会社 代表取締役)	御欠席
佐藤 誠司	岩手県商工会議所連合会 事務局長	御欠席
橋浦 栄一	岩手県消費者団体連絡協議会 常任幹事	
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 学部長	
若生 和江	環境アドバイザー	

(五十音順)

1 委員 10名

2 任期 平成30年7月19日～令和2年7月18日

第1回いわての森林づくり県民税事業評価委員会 県関係出席者名簿

役 職 等	氏 名	備 考
農林水産部 林務担当技監	橋 本 卓 博	
技術参事	阿 部 義 樹	
林業振興課 総括課長	高 橋 一 志	
振興担当課長	小 川 健 雄	
主任主査	田 島 大	
主 査	西 川 祐 児	
主 査	鈴 木 将 人	
主 事	東 智 優	
森林整備課 整備課長	及 川 明 宏	
計画担当課長	成 松 美 樹	
主任主査	廣 田 紀代子	
主 査	似 内 智 明	
盛岡広域振興局林務部 主任主査	佐 藤 英 明	
盛岡広域振興局林務部 主任主査	遠 藤 步	
県南広域振興局林務部 主 査	高 橋 秀 樹	
花巻広域振興局林務部 主任行政専門員	照 井 重 光	
花巻広域振興局林務部 いわて環境の森整備推進員	菊 池 継 彦	
遠野農林振興センター 林業普及指導員	女 鹿 咲 恵	
沿岸農林振興センター 上席林業普及指導員	中 村 文 治	
大船渡農林振興センター 技師	森 諒 平	
宮古農林振興センター林務室 技師	佐 藤 真奈美	
宮古農林振興センター林務室 技師	山 下 敏 仁	
宮古農林振興センター林務室 いわて環境の森整備推進員	伊 藤 秀 一	
二戸農林振興センター林務室 技師	及 川 純	

平成30年度いわての森林づくり推進事業の実績について

1 事業費の状況

(1) 平成30年度いわての森林づくり基金に対する積立金（基金積立）

ア いわての森林づくり県民税（市町村徴収取扱費控除後）

720,791千円

イ 基金運用益 ※ 基金運用益は、いわての森林づくり基金積立金を、岩手県資金管理運用方針に基づき会計管理者が他の基金とともに、一元的に資金運用した結果得られた預金利子  
285千円

(2) 平成30年度の事業実績

ア 事業費

(単位：千円)

事業名	当初予算額	決算見込額
① いわて環境の森整備事業	699,756	320,481
② 県民参加の森林づくり促進事業	60,384	46,352
うち県民参加の森林づくり促進事業	(31,840)	(23,346)
うち森林・山村多面的機能発揮対策事業	(28,544)	(23,006)
③ いわて森のゼミナール推進事業	5,176	5,134
④ いわての森林づくり普及啓発事業	7,029	6,907
⑤ 事業評価委員会運営費	1,919	1,212
計	774,264	380,086

イ 事業実績

事業名	実績
① いわて環境の森整備事業	確保面積 581ha (目標面積 1,500ha)
② 県民参加の森林づくり促進事業	
◆ 県民参加の森林づくり促進事業	事業実施団体 39団体 活動参加者数 6,207名(森林の感謝祭含む)
◆ 森林・山村多面的機能発揮対策事業	活動組織団体数 94団体
③ いわて森のゼミナール推進事業	森林学習会 25校・596名 森の実践ゼミナール 指導者研修2回・プラン策定2地域
④ いわての森林づくり普及啓発事業	テレビ・ラジオCM 142本、新聞広告1回 いわての森林づくりインターネットアンケート (実施期間：平成30年12月～平成31年1月) (回答者数：731人 県民税認知度：45.8%) 森林学習パンフレット等制作
⑤ 事業評価委員会運営費	7回開催(現場調査1回含む)

## 2 いわて環境の森整備事業

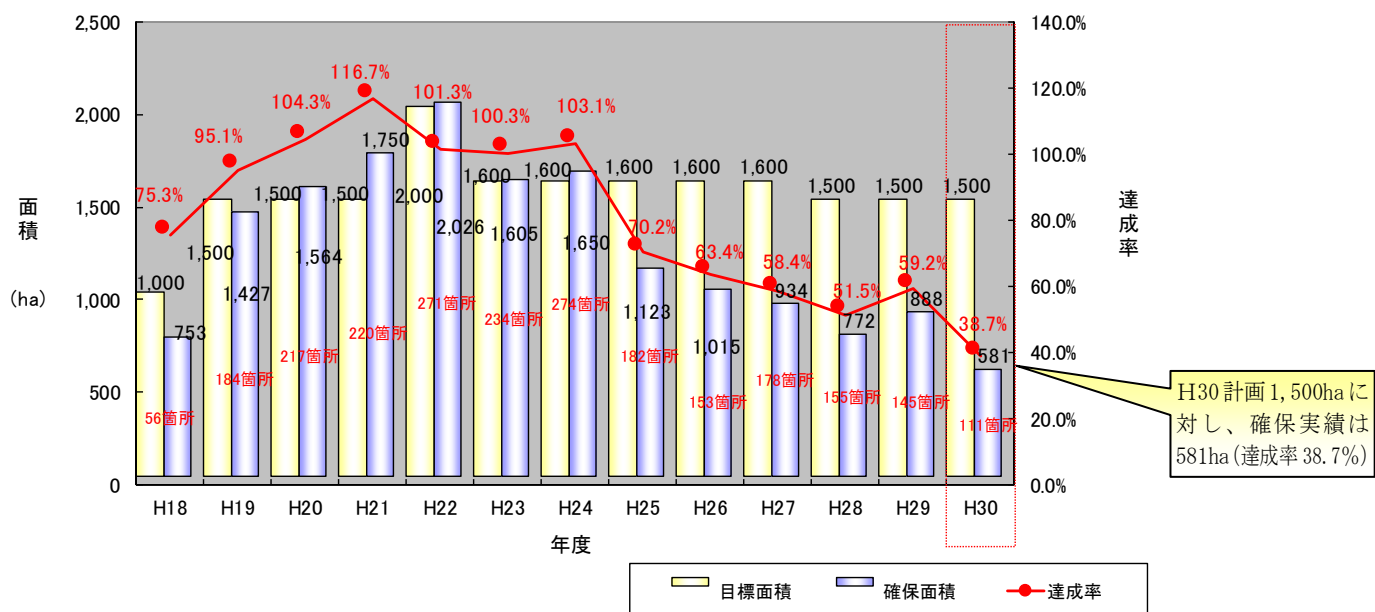
### 《取組の成果》

- 1 平成30年度の計画面積1,500haに対し、事業対象森林確保面積は581ha（達成率38.7%）
- 2 事業開始から県内全域で16,088haを確保（H30年度までの計画面積20,000ha、達成率80.4%）
- 3 森林組合等を主体とする地域提案型事業（補助）が定着（H23以降のシェア100%）

#### (1) 確保面積

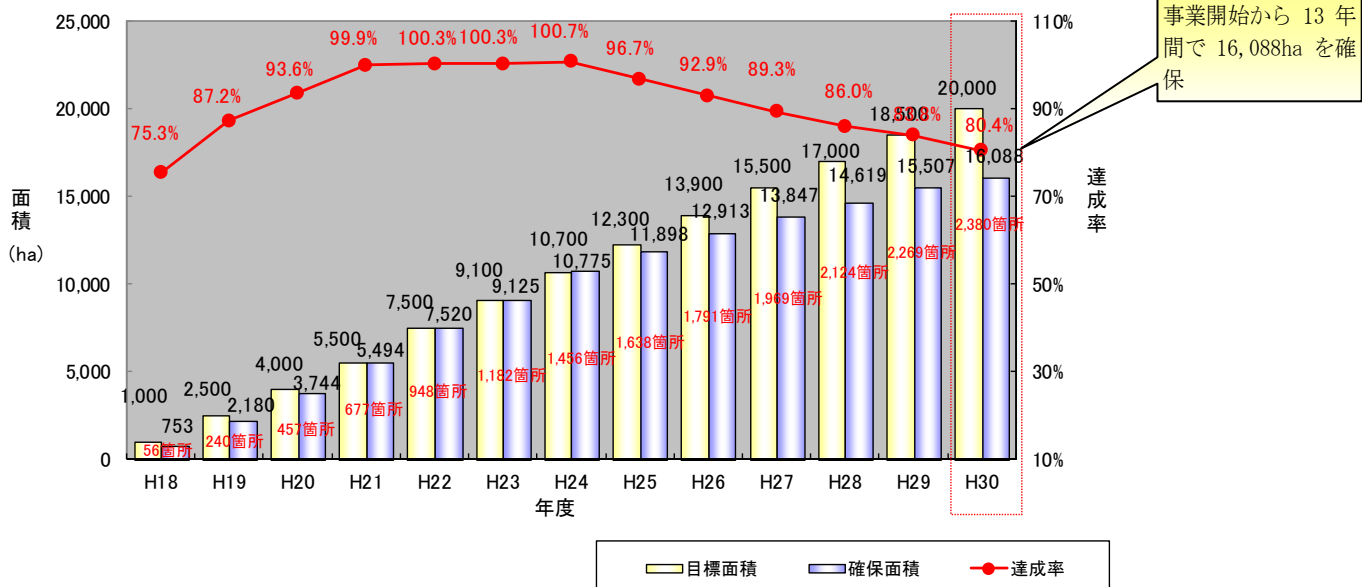
- ア 平成30年度計画面積1,500haに対し、事業対象森林確保面積は581ha（達成率38.7%）（図1参照）
- イ 事業開始から13年間で、16,088haを確保（図2参照）
- ウ 事業対象森林は、県内全域にわたり確保（別添資料参照）

〔図1〕 いわて環境の森整備事業確保面積の推移



目標達成率は、平成25年度から下降傾向。  
近年の国産木材の需要の高まりによる主伐等の素材生産と、その伐採跡地で行う、造林や下刈の作業が増加しており、間伐を含む保育作業の労務が不足していることから、施工地の確保が進まず、環境の森整備事業確保面積が目標値に届いていない。

〔図2〕 いわて環境の森整備事業確保面積の推移(累計)

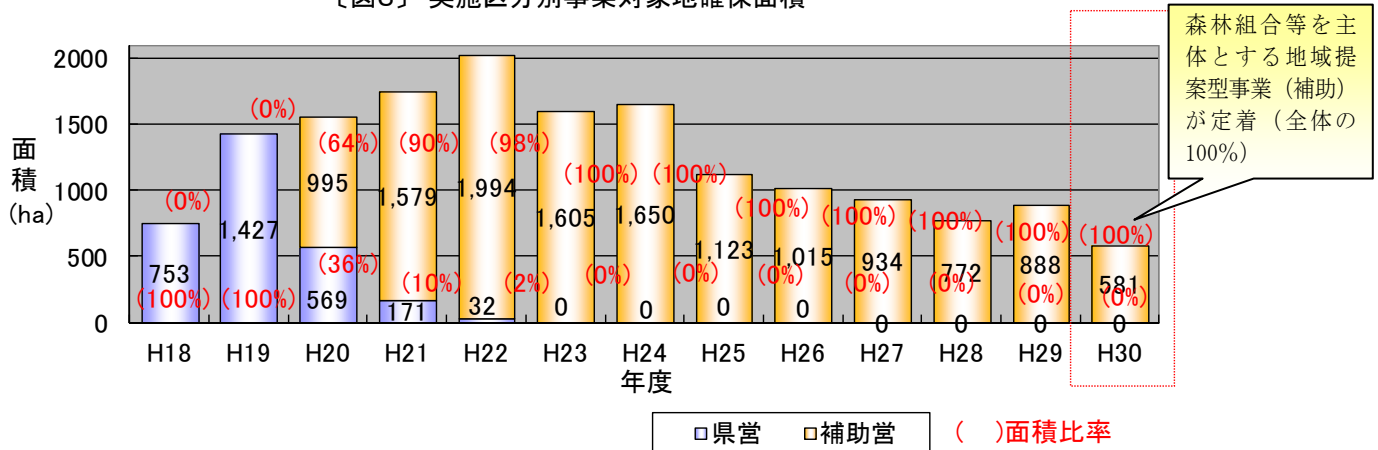


(2) 事業実施主体等

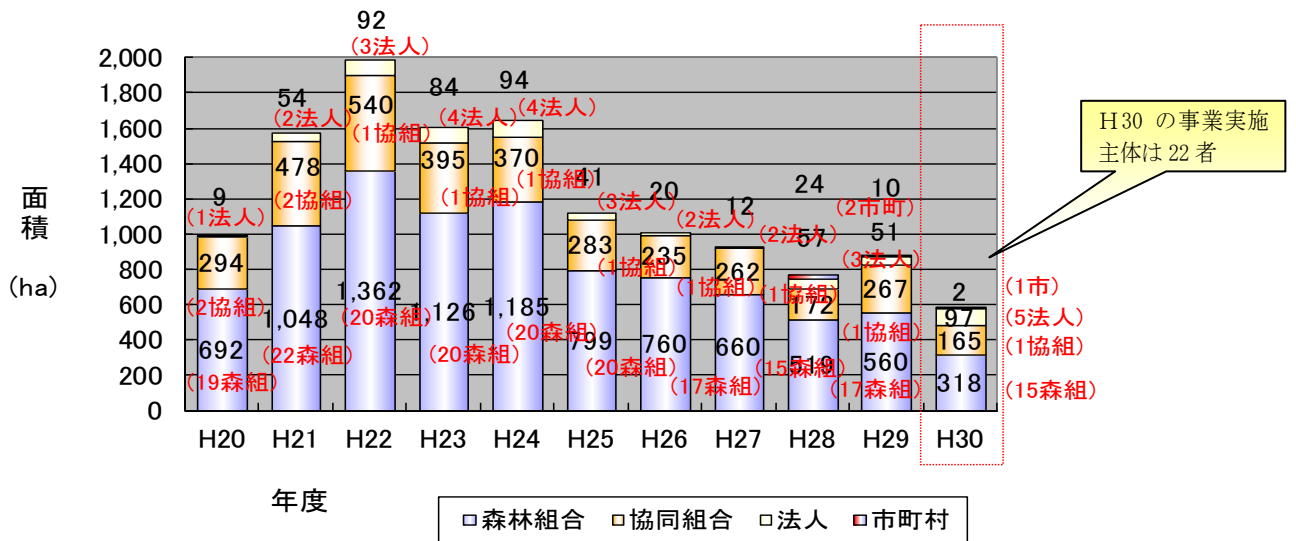
ア 森林組合等を主体とする地域提案型事業（補助）が定着（図3参照）

イ 森林組合等の22事業体により事業実施（図4参照）

〔図3〕 実施区分別事業対象地確保面積



〔図4〕 事業実施主体別確保面積



### 3 県民参加の森林づくり促進事業等

#### (1) 県民参加の森林づくり促進事業

##### 《平成 30 年度取組実績》

- 1 企画募集は第 1 次及び第 2 次と 2 回実施し、応募団体全てを採択した結果、平成 30 年度の活動団体は 39 団体となった。
- 2 各活動への参加者は、延べ 6,207 人となった。
- 3 活動団体を活動区分ごとに分類すると、森林整備 11 団体、人材育成 2 団体、森林学習 20 団体、県産材利用（被災地枠）6 団体となった。

##### ア 企画募集状況

募集区分	募集期間	応募	採択	実施	審査
第 1 次	H30. 1. 29～2. 28	35	35	35	H29 年度第 6 回評価委員会
第 2 次	H30. 4. 16～5. 14	4	4	4	H30 年度第 1 回評価委員会
計		39	39	39	

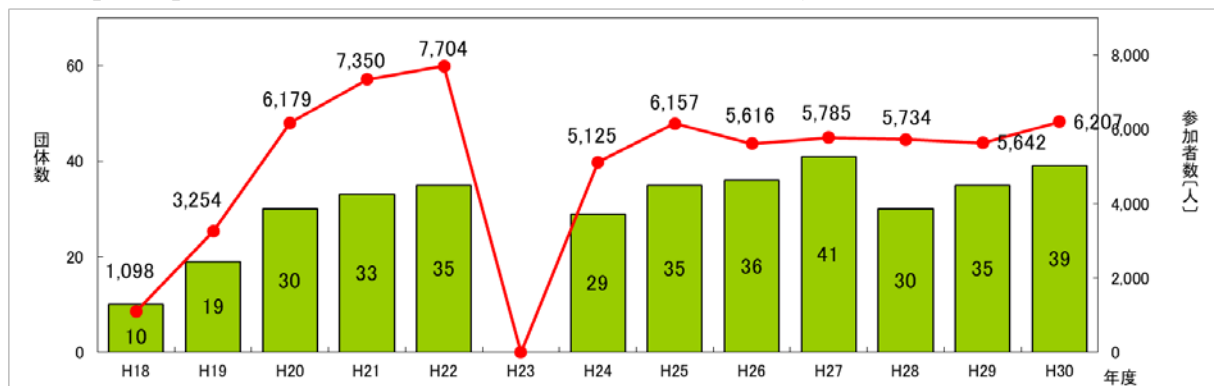
##### イ 活動団体数

制度導入以降、増加傾向にあったが、東日本大震災津波の影響で落ち込んだ。平成 30 年度は、前年度から 4 団体増加し、39 団体の活動を支援した。

##### ウ 参加者数

参加者数は、近年横ばいの状況となっている。平成 30 年度は、前年度を 565 人上回り、延べ 6,207 人となった。

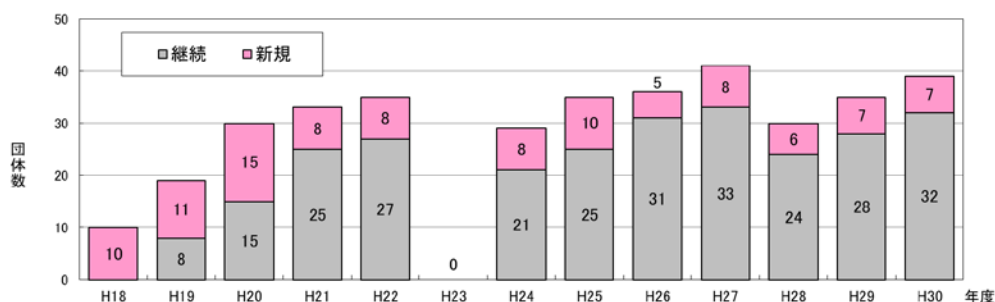
【図 1】活動団体数、参加者数等の推移（被災地枠含む）



##### エ 新規・継続団体の推移

平成 30 年度の活動団体 39 団体のうち、新規団体は 7 団体（うち被災地枠 4 団体）、継続団体は 32 団体であった。

【図 2】通常枠採択団体の継続・新規の別（被災地枠含む）



オ 活動団体の活動区分

制度導入時から実施した間伐等による森林をつくる活動に加え、平成 20 年度から森林環境学習活動などの「森林を学び活かす活動」を補助対象活動に加えた。

さらに、平成 24 年度からは、被災地枠を新設するなど、多様な活動を支援している。

【表 1】活動区分別団体数

区 分	森林をつくる活動		担い手 育成活動	森林を学び 活かす活動	森林資源を 活かす活動	計	被災地枠	合計
	森林整備 活動	森林所有者 啓発						
平成18年度	10					10		10
19	19					19		19
20	25	1		4		30		30
21	20		1	11	1	33		33
22	16		1	17	1	35		35
23								
24	10		1	13	1	25	4	29
25	7	1	1	17	1	27	8	35
26	8	1	2	20		31	5	36
27	7	1	4	26		38	3	41
28	8		3	18		29	1	30
29	11		3	20	1	35		35
30	11		2	20		33	6	39
累計	152	4	18	166	5	345	27	372

カ 県実施事業（森林公園等における県産材利用促進）

滝沢森林公園ネイチャーセンターに県産木材を活用した看板を設置し、県産材利用の利用促進を図るとともに、園内で観察することができる樹木や植物、野鳥などを紹介するイラストを掲示し、野生動植物の生息の場としての森林の持つはたらきについて、普及啓発を行った。



## (2) 森林・山村多面的機能発揮対策事業

《平成 30 年度取組実績》

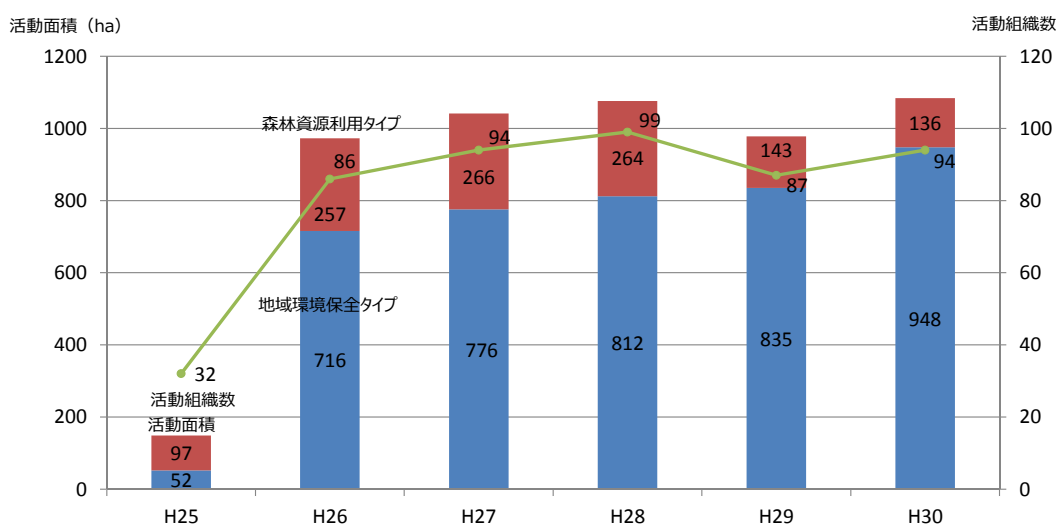
- 1 申請のあった活動計画については、審査の結果、全てが採択され、平成 30 年度の活動団体は 94 団体となった。
- 2 主な活動区分ごとの実績は、地域環境保全タイプ（里山林整備等）948ha、森林資源利用タイプ（薪炭利用の伐採等）136ha、森林機能強化（森林作業道の開設）4,720mとなった。

### ア 主な活動実績

平成 30 年度は 94 団体が事業に取り組んでおり、本事業の目的である、森林の保全管理や山村地域の活性化に資する取組が着実に実行されている。

近年は、ツルの除去や不要木の整理などの里山林整備を行う地域環境保全タイプの実施面積が増加する傾向にある。

年度	主な活動実績			活動組織 団体数
	地域環境保全 (里山林整備・ 侵入竹の伐採等)	森林資源利用 (薪炭利用等の ための伐採等)	森林機能強化 (森林作業道)	
H25	52 ha	97 ha	—	32
H26	716 ha	257 ha	—	86
H27	776 ha	266 ha	1,810 m	94
H28	812 ha	264 ha	1,372 m	99
H29	835 ha	143 ha	1,840 m	87
H30	948 ha	136 ha	4,720 m	94
累計	4,139 ha	1,163 ha	9,742 m	492



※ 国庫補助事業である森林・山村多面的機能発揮対策事業は、事業の趣旨が「県民参加の森林づくり促進事業」と同様であることから、地方負担額について、県民税を活用しているもの。

なお、県民税を活用した事業であることから、県民に事業内容を明らかにし、透明性の確保を図るため、いわての森林づくり県民税事業評価委員会から、2名の委員に「いわて里山再生地域協議会」の構成員として参画していただいている。

## 4 いわて森のゼミナール推進事業

### 【取組の状況】

県民の方々に広く森林・林業の普及啓発を図るため、以下の取組を実施。

- 1 小学校 25 校、計 596 名の児童・生徒を対象に、森林インストラクター等の指導者による森林学習会
- 2 一般県民を対象に、地域住民の自主的な森林づくり活動（森林環境学習地域プラン策定）の取組支援や指導者研修会

### 【今後の対応】

- 1 広く県民を対象とした森林・林業学習の機会を継続して提供し、森林・林業に対する理解の醸成を促進する。
- 2 地域住民の主体的な取組が県内各地で活発に行われるよう、指導者の育成や活動プラン策定等の支援を継続して実施する。

#### (1) 森林学習会 [25 校で開催、計 596 名参加]

県内の教育事務所を通じて募集した小学校において、森林インストラクター等による樹木観察などの森林環境学習を実施。

- ① 開催期間：平成 30 年 6 月 15 日～平成 31 年 2 月 13 日
- ② 開催場所：県内の小学校

#### (2) 森の実践ゼミナール

[指導者研修会 2 回、プラン策定 2 地域]

地域住民の自主的な森林づくり活動などの取組が県内各地で活発に行われるよう、指導者研修会を実施し、森林環境学習地域プランを策定するなど活動を支援。

##### ① 指導者研修会

開催日・開催場所	研修内容
平成 30 年 9 月 30 日 紫波町山屋字外村	・森林環境学習活動事例紹介 ・意見交換会
平成 31 年 1 月 14 日 紫波町山屋字外村	・各団体活動発表 ・意見交換会

##### ② 活動支援の内容

以下の 2 地域の団体に対し、活動の体制づくり、具体的な活動内容の検討を行い、森林環境学習地域プランを策定。

団体名（市町村）	プランの内容
やまんばプロジェクト （一関市）	山の木を暮らしにどう活かすかを検討
セブンフォレストプロジェクト （雫石町）	雫石町の七ツ森を拠点とする地域活性化を検討



## 5 いわたの森林づくり普及啓発

### 《平成 30 年度取組実績》

#### 1 マスメディア広報等を通じた普及啓発

県民税事業の活用等と呼びかけるテレビ CM 等による広報と併せ、認知度把握等を目的としたインターネットによるアンケート調査を実施。

#### 2 市町村広報への記事掲載依頼

森林所有者向けに、環境の森整備事業の実施と呼びかける記事の掲載を依頼。17 市町村から協力が得られ、所有者から制度等の問合せがあった。

#### 3 広報物品による普及啓発

県民税の制度概要や森林の役割等を普及啓発するクリアファイルを制作し、いわでの森林の感謝祭などの植樹会場で参加者へ配布した。

#### 4 学習支援パンフレット制作

県内の児童に、岩手の森林の姿や森林の役割、林業について学び、森林の大切さを理解してもらうため、小学校 5 学年の授業での活用を想定した学習支援パンフレットを制作し、県内全小学校へ配布した。

#### 5 森林・林業動画制作

上記 4 と連動した取組として、森林環境の保全に対する県民意識の向上、森林のもつ多面的機能の理解醸成、県民税を活用した取組み等の周知を図るため、森林・林業動画を制作し、岩手県公式動画チャンネル (YouTube) 等で公開した。

### (1) マスメディア広報等を通じた普及啓発

#### ア テレビCM広報

- ① IBC、TVI、MIT、IATの民放4局で15秒CMを放映  
(環境の森整備事業編CM：冬季)



#### ② 新聞広告

(岩手日報社会面記事下広告：平成 30 年 12 月 30 日掲載)

**森の恵みを、未来へリレー!**

**いわでの森林づくり 県民税**  
SINCE 2004

**平成29年度の実績**  
税収約7億5千万円のうち、約3億7千万円を活用しました。残額は基金に積み立て、今後のさまざまな活動に役立てていきます。

**活用事例**

- いわで環境の森整備事業……………888ヘクタールの森林を整備
- 県民参加の森林づくり促進事業……………延べ5,642名の県民が森林づくりに参加
- いわで森のゼミナール推進事業……………県内小中学校23校で森林学習会を開催

**「いわでの森林づくり県民税」って何に使われているの?**

**いわでの森林を元気にする活動に活かされています!**

**いわで 環境の森整備事業**  
手入れの行き届いていない人工林を開伐しています!

**県民参加の森林づくり促進事業**  
森林を守り育てる活動を支援しています!

**いわで森のゼミナール推進事業**  
児童・生徒のための森林学習などを実施しています!

**森林所有者のみなさんへ**  
～手入れできない人工林の開伐について～  
県では「いわでの森林づくり県民税」を活用して、公益上重要でありながら、手入れの行き届いていない人工林(ササガクアツナ)などの開伐に活用しています。

**森林はこのように変わります**

**いわで環境の森整備事業について**

●対象林種  
① 杉、ヒノキ、アカマツなどの針葉樹林  
② 赤松、黒松、コナラなどの広葉樹林  
●対象林齢  
① 杉、ヒノキ、アカマツ…10年以上(10年未満は、森林は再植栽が必要)② 赤松、黒松、コナラ…10年以上(10年未満は、森林は再植栽が必要)  
●対象林分  
① 杉、ヒノキ、アカマツ…10年以上(10年未満は、森林は再植栽が必要)② 赤松、黒松、コナラ…10年以上(10年未満は、森林は再植栽が必要)

**いわでの森林づくり 県民アンケートキャンペーン**  
実施中

アンケートに答えると、抽選で10名様に **いわで純情ギフトが当たる!** ふるってご参加ください!

岩手県産品が当たる!

スマホから簡単アクセス!  
または下記URLからアクセス!  
【アンケートURL】  
<http://iwakou.com/shirin/2019/>

**岩手県** 詳しい内容については 農林水産部林業振興課 ☎020-8570 盛岡市内在10-1 TEL:019-629-5775/FAX:019-629-5779 **いわでの森林づくり県民税** 🔍 検索



### ③ インターネットアンケート調査

平成 30 年 12 月から 31 年 1 月にかけて、インターネットを活用しアンケート調査を行ったところ、県民税の認知度は約 46%となり、平成 29 年度（約 55%）より 9 ポイント低下した。

〔 県民税の認知度：県民税の制度を知っている若しくは制度があることは知っている  
と答えた人の割合（H30：335 人／731 人） 〕

【平成 30 年度調査結果（男女別及び年代別）】

区分	認知度
全体	45.8% (8.9 ポイント減)
男性	58.1% (3.4 ポイント減)
女性	38.6% (9.5 ポイント減)

区分	認知度
10 代	14.3%
20～30 代	39.1%
40～50 代	47.1%
60 代以上	64.1%

### (2) 学習支援パンフレット制作

(いわての森林の恵みガイドブック：A 4 版 12 頁)



### (3) 森林・林業動画制作

「森林環境の保全」及び「森林環境教育」をテーマとした動画 2 編を制作し、岩手県公式動画チャンネル (YouTube) にて公開したほか、地域への貸出用として DVD を各現地機関に配布。

(森林環境教育編動画)



令和元年度いわての森林づくり推進事業の内容について

いわての森林づくり県民税収額 758,000 千円  
(個人：1,000 円、法人：2,000 円～80,000 円)



基金積立金  
727,537 千円

1 事業費

(単位：千円)

区分	H30 当初予算 A	R1 当初予算 B	差引 B-A
(1) いわて環境の森整備事業	699,756	702,654	2,898
(2) 県民参加の森林づくり促進事業	60,384	61,356	972
うち県民参加の森林づくり促進事業	(31,840)	(32,754)	(914)
うち森林・山村多面的機能発揮対策事業	(28,544)	(28,602)	(58)
(3) いわて森のゼミナール推進事業	5,176	4,745	△431
(4) いわての森林づくり普及啓発事業	7,029	7,611	582
(5) 事業評価委員会運営	1,919	6,173	4,254
事業費計	774,264	782,539	8,275

いわての森林づくり基金積立金	725,277	727,537	2,260
----------------	---------	---------	-------

2 事業内容

事業内容	事業量
(1) いわて環境の森整備事業	
公益上重要で緊急に整備が必要な人工林について混交誘導伐を実施 併せて、間伐材の有効利用や松くい虫被害木の駆除を実施	混交林誘導伐 1,500ha 松くい虫感染源クリーンアップ 2箇所 (補助対象経費に作業道補修に係る機械運搬経費を追加)
公益的機能が高い高齢のナラ林をナラ枯れ被害を受け難い若い森林への更新を支援	ナラ類等広葉樹の伐採 30,504 m <sup>3</sup>
主要道路及び公共施設等の周辺で、倒木被害の予防、景観保全等を図るため、アカマツ枯損木等を伐採し、広葉樹林への天然更新を支援	アカマツ伐採、集積 1,664 m <sup>3</sup> (事業主体に林業事業者等を追加)
森林への移行が困難な箇所の環境を保全する植栽活動について支援	植栽 3ha
(2) 県民参加の森林づくり促進事業	
◆ 県民参加の森林づくり促進事業 地域住民やNPO等が取り組む、森林整備活動や森林ボランティアの育成など、森林づくり活動や森林環境学習、県産材活用等による森を学び活かす活動を支援	事業実施 35 団体 (R1.5 時点) 参加目標人数 7,000 人 森林公園看板等設置 3 箇所 (県事業)
◆ 森林・山村多面的機能発揮対策事業 森林の有する多面的機能を発揮させるため、森林所有者や地域住民等が共同で行う森林の保全活動や山村地域の活性化の取組を支援	活動組織数 95 団体 (H31.4 時点) 里山林整備 951ha 等
(3) いわて森のゼミナール推進事業	
児童生徒をはじめ、広く県民を対象に、森林・林業を学習する機会を提供	森林学習会 23 校 地域活動支援 2 地区
(4) いわての森林づくり普及啓発事業	
森林・林業の役割や重要性、県民税の趣旨や取組内容・効果等について、県民に対し情報発信	テレビ・ラジオCM、新聞広告等
(5) 事業評価委員会運営	
いわての森林づくり推進事業の審査や評価、検証を行う事業評価委員会を開催	事業評価委員会 7 回開催 県民アンケート調査

令和元年度いわて環境の森整備事業 施工地選定審査基準(審査)

いわて環境の森整備事業の施工地選定審査に当たっては、下表に掲げる基準を満たしているものを適とする。

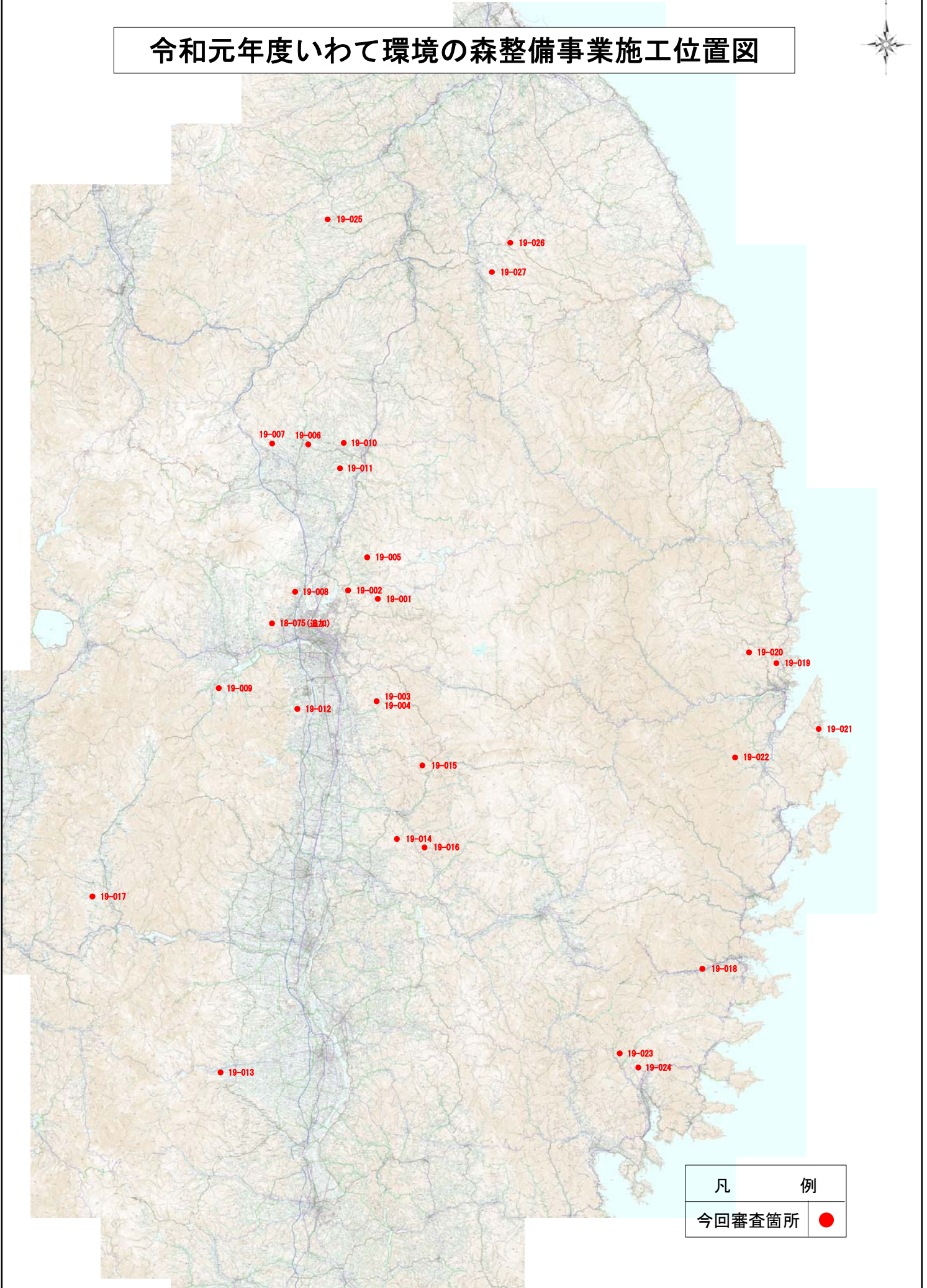
審査項目		審査基準
森林に関する事項	事業対象森林	① 私有林であること。
		② 人工林であること。
		③ 公益林であること。 ア 水源地域等の上流域の森林 イ 野生動植物生育の場として重要な森林 ウ 自然林に戻すことによって、景観的な多様性の維持・向上を図るべき森林 エ 上記に準ずる森林
		④ 保安林の場合は以下であること。 ア 損失補償の対象となっていないこと イ 既往の治山事業施工地でないなど、治山事業の採択基準を満たしていないこと ウ 採択基準を満たしていても、一定の期間にわたって森林整備を実施できていないこと
	採択基準	⑤ 対象樹種は、原則として人工林であるスギ、カラマツ、アカマツ等の針葉樹であること。 ただし、アカマツ天然生林においても、地域において保全上重要な森林については、対象とするものとする。
		⑥ 対象齢級は、原則として4から10齢級であること。 ただし、3齢級以下及び11齢級以上であっても、地域において保全上重要な森林で、本事業の計画に加えるべき森林については、対象齢級として取扱うものであること。
		⑦ 1施工地の面積は、0.3ヘクタール以上であって、原則として1ヘクタール以上の団地であること。 ただし、団地の考え方(団地性の判断)については、各施工地の相互の間隔が概ね10キロメートル以内の範囲であるものとする。(概ね半径10キロメートルの円内にすべての施工地が含まれること。)
森林所有者に関する事項	⑧ 協定書の締結に同意していること。 (現時点では口頭による確認)	

令和元年度いわて環境の森整備事業施工予定地一覧表(補助)

連番	受付番号		市町村	大字	字	樹種	面積 (ha)	林齢 (年生)	申請者	特記事項
001	19	001	盛岡市	上米内	畑 地内	スギ	4.30	28	岩手県森林整備協同組合	
002	19	002	盛岡市	上米内	砂子沢 地内	スギ、ヒノキ	4.30	34~37	盛岡広域森林組合	
003	19	003	盛岡市	大ヶ生	8地割 ほか地内	スギ	5.64	19~48	(株)イワリン	
004	19	004	盛岡市	大ヶ生	23地割 地内	スギ	15.07	48	(株)イワリン	
005	19	005	盛岡市	玉山	時館 ほか地内	スギ、サウラ	2.12	21~45	盛岡広域森林組合	
006	19	006	八幡平市	西根寺田	第12地割 ほか地内	スギ	1.60	18	盛岡広域森林組合	
007	19	007	八幡平市	松尾	第14地割 ほか地内	スギ	1.55	21~41	盛岡広域森林組合	
008	19	008	滝沢市		湯舟沢 地内	スギ	1.10	36	盛岡広域森林組合	
009	19	009	雫石町	西安庭	第41地割 ほか地内	スギ	6.08	31~35	盛岡広域森林組合	
010	19	010	岩手町	一方井	第16地割 地内	スギ	3.75	18~42	盛岡広域森林組合	
011	19	011	岩手町	土川	第1地割 地内	スギ	1.74	20	盛岡広域森林組合	
012	19	012	矢巾町	和味	第13地割 ほか地内	スギ	3.62	34~49	盛岡広域森林組合	
013	19	013	奥州市	胆沢若柳	上横沢原 地内	スギ	3.88	26~49	(株)小野寺林業	
014	19	014	花巻市	大迫町	外川目第31地割 地内	スギ	4.45	15~27	花巻市森林組合	
015	19	015	花巻市	大迫町	内川目第14地割 地内	スギ、カラマツ	9.50	31~46	花巻市森林組合	
016	19	016	花巻市	大迫町	外川目第21地割 地内	スギ、アカマツ	10.50	46	花巻市森林組合	水源涵養保安林 10.50ha
017	19	017	西和賀町	左草	第1地割ほか 地内	スギ	8.33	32~43	西和賀町森林組合	
018	19	018	釜石市	甲子町	第11地割 地内	スギ	1.60	44~57	岩手県森林整備協同組合	スギ 57年生 0.27ha
019	19	019	宮古市	崎山	第7地割 地内	スギ	1.06	47	宮古地方森林組合	
020	19	020	宮古市	田代	第4地割 地内	スギ、アカマツ	1.32	34	宮古地方森林組合	
021	19	021	宮古市	重茂	第2地割 地内	スギ、アカマツ	3.93	44~50	岩手県森林整備協同組合	
022	19	022	山田町	荒川	第7地割 地内	スギ、アカマツ	2.06	45	武商店合同会社	
023	19	023	大船渡市	日頃市町	黒森沢 地内	スギ、ヒノキ	3.14	21	気仙地方森林組合	
024	19	024	大船渡市	日頃市町	中小通 地内	スギ	2.36	43	気仙地方森林組合	
025	19	025	二戸市	上斗米	金田一川 ほか地内	スギ、ヒノキ、カラマツ	4.05	16~46	二戸地方森林組合	
026	19	026	軽米町	円子	第9地割 地内	スギ	1.45	15~16	二戸地方森林組合	
027	19	027	九戸村	長興寺	第15地割 ほか地内	スギ、ヒノキ、カラマツ	14.97	19~39	二戸地方森林組合	
028	18	075	滝沢市	大沢	湯の沢 地内	スギ	1.26	46~47	盛岡広域森林組合	追加申請(H30第5回委員会 承認面積 3.45ha)
a	今回計		28施工地				124.73			
b	令和元年度 既承認面積						0.00			
c	a + b						124.73			



# 令和元年度いわて環境の森整備事業施工位置図



凡	例
今回審査箇所	●



森林整備（事業実施）の必要性の集計結果について  
【平成30年度承認分】

平成30年度に承認された、いわて環境の森整備事業の施工地調書（108件）について、様式の「森林整備（事業実施）の必要性」について、施工箇所の森林の状況や森林所有者の状況の傾向を把握するため、集計を行ったもの。

◆ 平成30年度施工地承認数：108箇所（うち追加2箇所）

1 森林の状況

項目	箇所数	割合	備考
(1) 手入れ不足	108	100.0%	(その他) ・病害虫被害木 ・スギカミキリ被害 ・二股状の樹形 ・林内照度が著しく低い など
(2) 成立本数が多い	92	85.2%	
(3) 被圧木	92	85.2%	
(4) 雪害木	38	35.2%	
(5) 折損木、枯損木	34	31.5%	
(6) 枝の枯上り	34	31.5%	
(7) つる絡み	23	21.3%	
(8) その他	9	8.3%	

2 森林所有者の状況

項目	箇所数	割合	備考
(1) 整備意欲低下	106	98.1%	(その他) ・隣接する町に居住しているが、森林を確認したことはない。 ・本事業で実施した他の施工地を見て、森林整備を希望 ・相続した境界等が不明確 ・後継者は森林に関心がない など
① 材価の低迷	94	87.0%	
② 所有者が高齢	76	70.4%	
③ 遠隔地に居住	7	6.5%	
④ 後継者が不在	18	16.7%	
⑤ 相続したが関心がない	19	17.6%	
(2) 自力整備困難	108	100.0%	
① 林業経験・知識の不足	27	25.0%	
② 仕事が多忙	16	14.8%	
③ 経済的理由	105	97.2%	
④ 条件不利地	7	6.5%	
(3) 森林整備の必要性を理解	57	52.8%	
(4) その他	6	5.6%	

3 下流の保全対象

項目	箇所数	割合	備考
(1) 集落	106	98.1%	(その他) ・生活道路（市道） ・ダム、発電所 ・浄水場、水道施設 ・漁港 など
(2) 農地	86	79.6%	
(3) 国道	38	35.2%	
(4) 県道	50	46.3%	
(5) 鉄道	15	13.9%	
(6) 公共施設	25	23.1%	
(7) その他	17	15.7%	

# いわての森林づくり県民税 次期対策検討スケジュール(案)

令和元年6月14日  
第1回いわての森林づくり  
県民税事業評価委員会  
資料 No. 4

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
R元年度	事業評価委員会													
			①6/14	②7月下旬		③9月下旬	④10月下旬	⑤11月下旬		⑥1月中旬		⑦3月下旬		
			成果(前年度)概要報告	導入後の成果概要報告 アンケート内容検討 県民懇談会内容検討 森林環境譲与税との関係性整					県民アンケート概要報告 県民懇談会概要報告 提言書検討(方向性整理)		提言書検討		提言書取りまとめ	
						県民対象のアンケート実施	県民懇談会実施							
			庁内次期対策検討WG 〔政策地域部、環境生活部、農林水産部、県土整備部、総務部、教育委員会事務局〕 〔農林水産部内：農林水産企画室、林業振興課、森林整備課、森林保全課、林技センター〕											
	他県事例調査													

※③9月下旬、④10月下旬は、通常の施工地審査等を中心に行いますが、検討の状況によって、次期対策の御意見をお伺いします。

## 森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律（平成31年3月29日制定）の概要

### 1 制度の趣旨

パリ協定の枠組みの下におけるわが国の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るため、森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から、森林環境税及び森林環境譲与税を創設する。

#### (1) 森林環境税

令和6年度から課税され、納税義務者から個人住民税と併せて年間1,000円が国税として徴収される。

#### (2) 森林環境譲与税

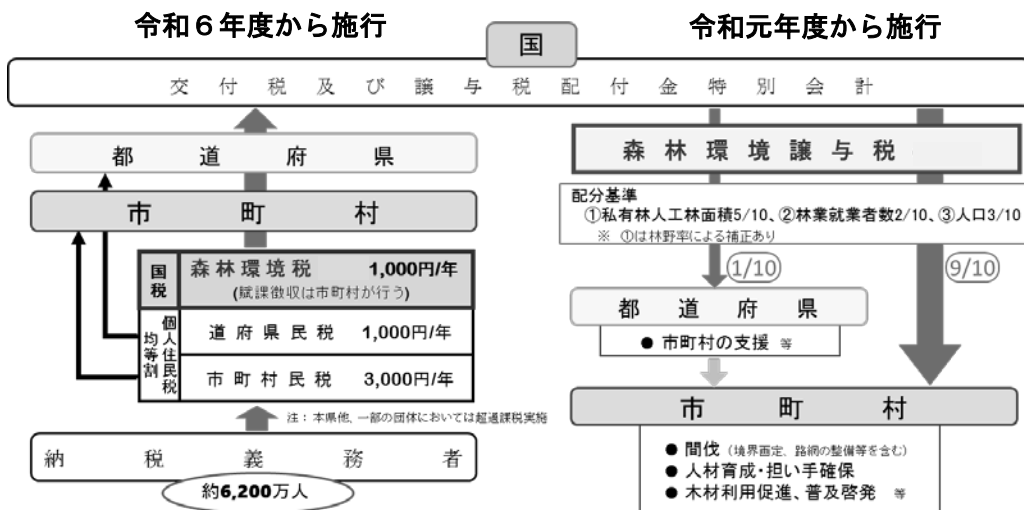
令和元年度から前倒しで市町村及び県に譲与される。

令和元年度から令和5年度は、特別会計借入れにより譲与され、借入金は令和6年度以降の税収の一部で償還する。

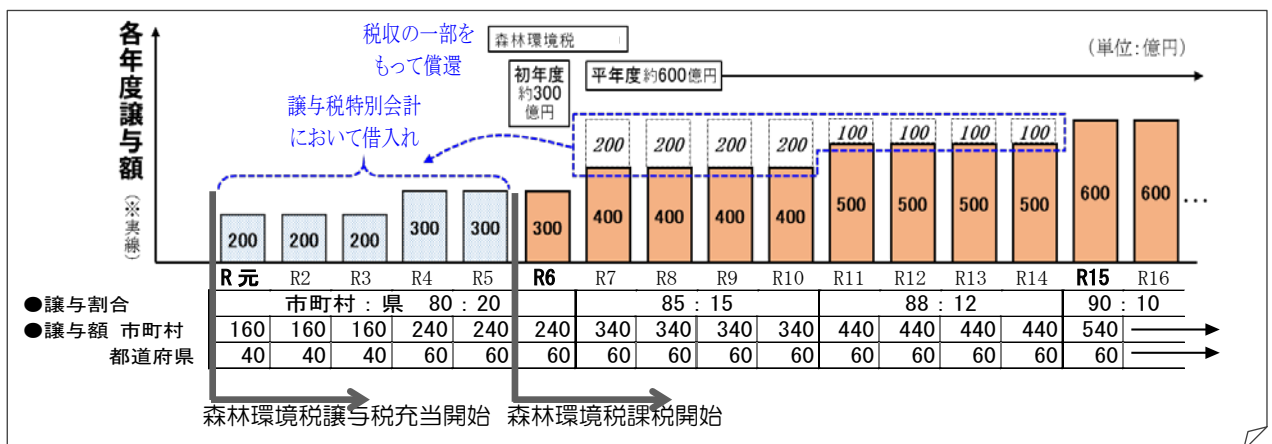
市町村と都道府県の剰余割合は、市町村が総額の9割、都道府県が総額の1割で譲与される。

当初は、経過措置として都道府県への譲与割合を2割とし、段階的に1割に移行する。

### ○制度設計イメージ ※林野庁資料より



### ○森林環境譲与税の譲与額と譲与割合（全国） ※林野庁資料より



### 2 森林環境譲与税の用途について（総務省：法律の概要より）

#### (1) 市町村

間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用

#### (2) 都道府県

森林整備を実施する市町村の支援等に関する費用